



『なみの高原やすらぎ交流館』とは

波野の恵まれた自然環境と住民たちの「業」で都会の人たちに田舎のめくもり提供。
「都市と農村の交流」でまちづくり…

「やすらぎ交流館」がオープンしたのは平成14年7月。波野村が閉校した小池野小学校を増改築してつくった宿泊できる研修施設です。経営は第3セクター。

都会の人たちに、波野を「第二のふるさと」として活用してもらうこと、波野の住民が集い豊かな「ひと」と「むら」をつくる拠点となること等が開館の目的。

施設は増改築から2年半というところで、まだ新しく木の香りが漂います。28畳の大広間をはじめ、同時に80人が食べられる食堂では、地元食材を使った「おふくろの味」が楽しめます。教室に畳を敷き、両脇にベッドを置いた宿泊室は「おもしろい」と子ども達に大人気。コインランドリーも設けられ、長期滞在も可能です。

元は学校なので、プールやグラウンド、体育館はもちろん利用できます。体育館には空調整備・放送設備・移動式舞台・長机・椅子・座布団

地域の活性に貢献する人たちを紹介するこのコーナー。今回は「やすらぎ交流館」を訪れる都会の人たちに、田舎の暮らしを体験させ、「見事」都市との交流を実のらせている皆さんです。

があり、車イスの方も安心して利用できます。また、専門のスタッフが配置されているのもやすらぎ交流館ならではの利用者には好評です。

週末村民

募集中!

～こんな人 集まれ～

- ・田舎暮らしを体験したい人
- ・神楽など伝統文化に興味のある人
- ・地域の名人・達人と交流したい人
- ・農業に興味のある人

問合せ先：
なみの高原やすらぎ交流館
Tel: 23-0555 / Fax: 23-0556
ホームページ：
<http://www.aso.ne.jp/~yasuragi/>



▲ジャガイモの収穫



▲キャベツの収穫



▲製材所で木工

こんな
体験
できます

講師の声



来た時と帰る時で
子ども達が
変わるんです

◇豆腐づくり◇
榎木野 浮子さん
(赤仁田)

やすらぎ交流館から講師の依頼が来るので、自然に心と体が動き出すのです。作業は、前夜に我が家で採れた大豆を水につけ、当日、それを石臼で挽き、豆乳・おから・豆腐と展開していきます。大豆から出来た豆腐を口にし、「わあ、違っ」と驚く顔を見るのが楽しみです。

会話も大切な交流。波野のよさ、農業の楽しさを話すと、子ども側からも家のこと、友だちのことを話してくれます。「やってよかった」と感じる瞬間です。都会の生活の話や聞く、よけいに。

今後について、この村自体が家族のようなものですから、このような取り組みをもっと広げていけると思います。

波野に来て
喜んでくれる
こんな幸せ
ありません

◇だご汁づくり◇
藤井 マサエさん
(小地野)



昔ながらの食文化の講師を頼まれ、たくさん産物が入った「だご汁」にしようと思いついた。2年前から協力しています。

私はこの交流がとても好きです。準備は大変ですが、長い間一緒にいることで、心まで豊かになって帰られる。

前回、若妻グループに「節切り大根」「そば打ち」を教えた時も、すぐ上達され「おふくろの味」と「まごころ」を都会で待つ家族へ持って帰られました。

皆さんからのお礼の手紙は私の宝物です。

それぞれの持ち味生かし田舎のくらし伝える

必要とされている阿蘇の恵み

やすらぎ交流館を利用する人たちは、実業団のスポーツ合宿から、高齢者の集い、学校行事と様々。その中で希望する人は、地元の人たちが講師の「波野を知る実習」が受けられます。

実習内容は「農業」「林業」「畜産」「郷土芸能」「食文化」で、これまで多くの波野の方々が協力されています。

やすらぎ交流館の壁いっぱいには貼られたお礼の手紙。田舎での生活体験は、核家族・マンション住まいの都市住民にとって「必要なもの」と、関係者は熱く訴えられます。この「都市側の需要」にこのような取組みが、今後のまちづくり事業の「核」になるものと実感します。

寒さから解放され、今年もたくさん利用者が波野を訪れます。波野自慢の『人・ひと』をどうぞご堪能あれ。

スタッフ一同皆さまのご利用 お待ちしております

さて、新緑のシーズンを迎え、私どもスタッフ一同、まずは市民の皆様をお迎えし、楽しんでいただきたいと思っています。ぜひお越し下さい。

当館では、家族旅行、キャンプ、音楽・スポーツ等の合宿、イベントの開催等様々な用途で利用できます。ご希望内容をご相談下さい。



▲神楽を通じて伝統文化体験



▲伝承遊び



▲シシトウの収穫と出荷